

半導体製造装置の開発強化に向けて、海外に新拠点を設置

株式会社SCREENホールディングスはこのたび、半導体製造装置事業における製品競争力の強化を目指し、新たに海外での研究開発拠点を設置する方向性を決定しました。

当社は、現中期経営計画「Value Up Further 2026」を、経営大綱で定める2033年3月期における「売上高1兆円以上、営業利益率20%以上」の実現に向け、新たな成長を支える経営基盤を構築するための投資フェーズと位置付けています。

このたび、半導体製造事業における、要素技術・製品開発力の強化を目指し、海外での研究開発拠点を設置する方向性を決定。彦根事業所内の研究開発拠点とのシナジーを最大化し、顧客との協業、研究機関や取引先とのコラボレーションなどを推進していきます。なお、成長投資として、総額110億円規模の設備投資*を実施する予定です。

今回の投資により、最先端デバイスの特性評価を行うことが可能となり、洗浄領域だけでなく、熱処理、アドバンスドパッケージなどの先端技術領域における要素技術開発、装置開発に要する期間を短縮するとともに、製品競争力の強化、付加価値向上を見込んでいます。

当社は、今後も企業価値向上に向けた取り組みを続けることで、半導体製造装置のさらなるシェア拡大を目指すとともに、収益性向上と競争力強化を図っていきます。

- 今回の発表は、開発拠点設立の方向性を決定した旨を、速やかに開示することを目的としており、詳細は決定次第お知らせする予定です。

* 2026年3月期より投資を開始、2027年3月期までの現中期経営計画期間中の設備投資額。リソースを含む費用は別途計上。